



さくら

題字 足立区長 近藤 やよい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 市村 智
編集 広報委員会
発行日 2022年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「森の中の村」 瀏江小 5年 山口 紗奈 作

目次

広報紙60号に思う	2
部会・委員会報告	3
ぶらり足立・勝専寺	4
子どもたちは今	5
地域ボランティア	6
退任広報委員から	7
中学生短歌 十二中	8
編集後記	

足立区民生・児童委員協議会だより 創刊60号を祝して

足立区長 近藤やよい



足立区民生・児童委員協議会だより「さくら」が創刊60号という節目の発行を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

創刊号から今年で19年「さくら」には、民生・児童委員の皆様の活動紹介をはじめ、住民との交流、地域に着目した様々な記事が掲載されています。60号という長きにわたり歴史を受け継がれてこられた広報委員会の皆様をはじめ、関係各位に改めて敬意を表します。

コロナ禍で思うように活動ができずにお聞きしていますが、その中でもハガキのやり取りによる区民との交流、訪問に代えて熱中症対策グッズやメッセージカードをポスティングするなど、様々な工夫をこらし

て区民の悩みや不安に寄り添っているお姿は、苦しさ、淋しさを抱えて生活されている方々をはじめ、多くの足立区民の皆様方の支えとなっています。大変頼もしく、心強い限りです。

超少子高齢社会にあって、生きづらさを抱える方々の悩みごとは多岐にわたるとともに、深刻さを増しています。また、人それぞれ状況が異なっているため、お一人おひとりに寄り添った、きめ細かい対応がより一層求められています。

行政サービスが行き届かないところに、温かい眼差しで支援の手を差し伸べていただく皆様方の活動こそが、足立区の福祉の根幹を支えていると確信します。今後とも地域と行政を繋ぐ確かな架け橋として、ますますのご活躍をご期待申し上げます。



会長協議会 視察研修 障害者支援施設「富岳の園」訪問

記録的に早い梅雨明けの6月28日、3年ぶりの会長協議会視察研修が実施されました。研修先は静岡県御殿場市にある「富岳の園」という障害者支援施設です。知的障害児施設、保育園、介護老人福祉施設を御殿場市と裾野市に持つ社会福祉法人「富岳会」が運営しています。

研修先に向かう車中で3人の講師から「生活保護受給者の支援」と「足立区における青少年教育」「コロナ禍で求められている民生・児童委員活動」について研修を受けました。

研修先に到着し富岳会山内理事長から施設の概要の説明を受け、施設を見学しました。その後、障がい者によるタオル工場での作業や食堂での調理の様子を見学することができました。また、敷地内のお菓子の館やパン工房を見学し、ピュアアートギャラリーでは利用者の絵画の作品が展示されており、驚くほど完成された素晴らしい作品ばかりでした。

近くには、自衛隊の東富士演習場があり見学移動中、時折「ドーン」と榴弾砲の音が響いていました。太鼓テラスに移動し、知的障がい者の療育を目的として始めた富岳太鼓の竜神組（インストラクターと障が

い者チーム）の7人による力強い演奏を聴きました。演奏者の皆さんは生き生きとしており、迫力のある太鼓の音は空腹に響く演奏でした。

研修終了後、大河ドラマで更に知名度の上った鎌倉に立ち寄り帰路につきました。今回、随行してくれた行政の皆様と東日トラベルセンターのサポートで無事研修を終えることができたことに感謝する次第です。

（広報委員会 委員長 益塚賢治 記）



▲ 研修先の玄関にて記念撮影

「広報紙60号に思う」 創刊号時の関係者

2003年に創刊された足立区民生・児童委員協議会だより「さくら」は、今回で60号の発行となりました。

私は創刊時の広報部に所属していました。今は亡き中田貢弘元会長をはじめ宮崎十三元職務代理のご尽力をいただきながら、今では考えられない程の頑張りで広報部会員一丸となって発行に向かっておりました。特に朝の9時から集まり、企画から取材、原稿収集、校正、レイアウトなど、新しい物を作り出すという希望と責任に燃える私たちでした。当時の写真を見ても皆さん本当にお若く、つい笑ってしまう程です。それもそのはず、約20年前ですから無理ありません。

やがて50号を機に全カラー刷りとなり、内容も一段と充実してきました。そんな「さくら」はとても立派で、初代の広報部会員として関わってきた者にとっては、誇りに思います。

また、2期6年活動できたために得る事柄は多く、とても勉強になりました。「さくら」の成長はとりもなおさず、民生・児童委員としての成長であると思います。

これからも「さくら」を読む方に活動の一助となり、また心の安らぎを得ることのできるような広報紙になっていただきたいと、心から希望いたしております。

60号発行 本当におめでとうございます。

（会長職務代理 野辺陽子 記）

*今は広報委員会ですが、当時は広報部会でした。



編集
広報部会
発行日
2003年3月1日

ミンジーは
まだ誕生し
ていません
でした。





部会・委員会 報告



生活福祉研究部会

～ 3 年間の想い～

生活福祉研究部会はその名の通り、範囲が広義にわたり、知識と専門性も求められる場と考えます。この3年間は日常が非日常になり、皆様も戸惑うことが多く、集合形式の会合の機会も殆どなく、部会員の皆様にはご不便をおかけいたしました。

今期の生活福祉研究部会の取り組みとして、1年目は「コロナ禍における生活福祉の現状（実態）と取り組みを学ぶ」をテーマとし、足立区における生活困窮者自立支援相談等の現状について学びました。

2年目は、生活保護の現状と事例や生活保護費の仕組み等について現場担当者の声をお聞きし、さらに生活困窮者自立支援制度と子どもの貧困対策について理解を深めました。

3年目は、生活支援施設のうち母子支援施設の現場担当者の話を伺い、緊急避難や特殊な事情での生活困

窮者である母子支援について一層の理解を深めました。

「私たちの温かい言葉や行いが苦しんでいる方々を支えます」という文言をあるところで見つけました。学んできた生活福祉は、まさにそのとおりと感じ入りました。

人類は困難な局面にあったときでも、必ず立ち直っています。

私たちも支援をさせて頂き、支援をして頂くときが必ずきます。昨今では、ご近所付き合いが希薄になったという話を耳にしますが、地域での活動は基本的に地域の方が良く知っています。これからも地域の方々の動向を注視しながら支え合おうと心に刻み活動したいと思います。

（生活福祉研究部会 部会長 名取恵 記）

高齢者福祉研究部会

～「行け！メンズ」と歩こう会 を体験参加～

令和4年度のテーマは、令和3年度のテーマを継続し、「高齢者が暮らしやすいまちづくりについて学ぶ」としました。新型コロナにより施設見学ができないなか、前年度は「認知症への理解及び成年後見人制度」について研修を受けました。

今年度の活動は「地域の居場所ふれあいサロンの現状と紹介」です。

コロナ禍での「つながりづくり」を各サロンがどのように工夫し、活動しているのか体験してきました。

今回は「『行け！メンズ』と歩こう会」というサロンを紹介します。このサロンは、コロナ禍で外出の機会が減り「筋力の低下を防ぐ」をテーマに毎週水曜日に実施されています。

屋外での活動でしたが、密にならないよう注意し、さらにマスクの着用を徹底しています。参加者は会話を楽しみながら、また健康維持に注力しながら、^{おのの}各々の目的に沿ってウォーキングしていました。



マスクをして参加

このようなサロンに参加するメリットを考えた時、すぐに思いついたのは「会話をすること」でした。その会話の中で、自分の生活上の悩みを話す仲間が見つかる可能性があるからです。

また、その悩みごとが専門知識を必要とする場合、各サロンには区役所の担当者がいるため、迅速に解決方法を提示してくれます。

「地域のつながり」は、個人のつながりから始まり地域全体に広がることが理想です。そのきっかけをこのようなサロンが担っているのではないかと思います。住みよい町は、時代の変遷によりハードの面では変わっていくのですが、基本は人とのつながりです。地元自治会と情報を共有し、発信することでつながりの場を提供することが必要であると思いました。

（高齢者福祉研究部会 津原利行 記）

足立区社会福祉協議会に登録されているふれあいサロンは、130以上（R4、6、1時点）あります。是非、参加してみてください！





ぶらい足立

～千住 勝専寺 ボロ市から縁日に～

三宮神山大鷲院勝専寺は山門が朱塗りであることから地元では赤門寺^{あかもん}として昔から親しまれており、1年のうち1月と7月の15日・16日のみ閻魔堂^{えんま}の扉が開かれ、閻魔大王が公開されます。それに合わせ、参道、境内には屋台などが出て、賑わいをみせています。

お参りをすれば日頃の非を許してもらえるうえに、万病、特に喘息や扁桃腺などの喉の病気に霊験あらたかといわれています。参詣者は一束の線香を買い求め、堂前の香炉にくべ、立ち昇る線香の煙を頭、喉、肩など五体に当てて病氣回復を祈願します。

『勝専寺は新井兵部政勝が開基となり、勝蓮社専阿上人を開山として文応元年（1260年）草創されたと



▲ 朱塗りの山門

いいます。江戸時代に日光道中が整備されると、ここに徳川家の御殿が造営され、徳川秀忠・家光・家綱らの利用があったそうです。また、日光門主等の本陣御用を務めた記録も見られ千住の拠点の一つであったことが知られています。』

参勤交代での最後の宿場として、ここで居住まいを正して江戸城に登城するため古着を着替えたのがボロ市となり、現在の縁日となったようです。

（4地区 吉田祐一 記）

* 『 』内は、足立区教育委員会作成の掲示板から抜粋。



▶ 開かれた閻魔堂の様子

瀏江小 5年 野口 優希穂 作



小学生アートコーナー

足立区の小学生より、
素敵な作品をご提供
いただきました。



西保木間小 5年 洛 一涵 作



瀏江第一小 6年 萩生田 知奈 作



子どもたちは今 あだち放課後子ども教室

子どもたちの放課後の居場所として「あだち放課後子ども教室」があるのをご存知でしょうか。小学校の放課後に校庭や体育館、教室や図書室などで子どもが自由に遊んだり、読書や宿題などをしたりできる教育委員会の事業です。利用するには登録制で、区内の小学校それぞれの状況によって異なりますが、1年生から6年生までを受け入れています。ランドセルを背負ったまま参加でき、地域の方々の協力で見守りを行い、公益財団法人 足立区生涯学習振興公社が運営を支援しています。

民生・児童委員として、この活動に関わっている方も少なくないと思います。私も母校でもある地域の小学校の「あだち放課後子ども教室」に関わっています。そのきっかけは、月1回の読み聞かせをしたことに始まります。10数年前から民生・児童委員として「開かれた学校づくり協議会」に参加していて、放課後子ども教室の実行委員会から読み聞かせの依頼を受けました。当時は仕事をしていたために

月1回の活動でしたが、退職後は週3回の見守りスタッフとして協力しています。

このコロナ禍にあって、イベント（英語・パソコン・工作教室・おはなし会など学校によって異なる）は中止となっていますが感染症対策をしながら、受け入れ人数も調整し活動しています。

地域で子どもたちを育み、安全・安心に過ごせる放課後の居場所の選択肢のひとつとなっています。スタッフとして、子どもたちの元気な姿や笑顔にたくさんのエネルギーをもらっています。

（8地区 吉澤はる江 記）



各学校によって違いがありますが、屋内や屋外で色々な遊び、運動、ゲームなどを実施しています。参加費は無料です。来てね！

令和三年度 民生・児童委員 各種表彰者受賞者祝賀会

令和4年6月9日西新井文化ホールにおいて、近藤やよい区長、工藤哲也区議会議長をはじめ、多くの来賓にご列席いただき祝賀会が開催されました。

国歌斉唱に始まり民生委員児童委員信条朗読、市村協議会会長の主催者挨拶、近藤区長、工藤区議会議長、宮崎十三社会福祉協議会副会長による来賓挨拶の後、来賓、主催者紹介と進み、表彰受賞者が受賞毎に登壇し、区長と一緒に記念撮影を行いました。

続いて「全国社会福祉協議会会長表彰」を受けら

れた10地区川上重昭会長から「地区の委員の皆様と家族の協力があったの受賞でした」と感謝の言葉が述べられました。

その後、市村協議会会長から教育のための寄付金が足立区に贈呈され、式典は終了となりました。

本年度は96名が受賞されました。

（竹の塚地区 金宮和代 記）

*受賞者名簿は、「さくら58号」に掲載



▲ 祝賀会風景



▲ 感謝状の贈呈



地域ボランティア 飼い主のいない猫

地域の皆さんから、地域に住む飼い主のいない猫の困りごとについて相談を受けることがあります。猫が可愛くて餌をあげる方もいれば、その猫たちに迷惑を受ける方もいます。

足立区近辺で飼い主のいない猫（地域猫）の問題に取り組む「NPO 法人けだ・まも」（以下、けだ・まも）のメンバーである中山さんにお話をうかがいました。

「けだ・まも」では飼い主のいない猫たちが増えた地域からご相談を受けて、避妊・去勢のための捕獲



▲ 捕獲器の餌に誘われる猫たち

などを支援しています。餌やりをしている人に、適切な餌やりを指導したり、子猫や人に慣れている大人の猫を保護して里親に繋げる譲渡活動もしています。独居の方が猫を残して亡くなったり、猫を残して福祉施設に入所してしまうケースにも対応することがあるそうです。

また、かねては保健所が窓口となっていましたが、足立区では令和4年度より「動物愛護相談支援窓口」を区役所内に設け、民間団体と協働し、より積極的に地域猫活動に取り組んでいます。「けだ・まも」は今年6月から「足立区地域猫活動支援モデル事業」の協力団体として、正式に区役所や保健所から依頼を受け、地域の方々から寄せられる飼い主のいない動物の問題が解決するよう支援や啓発活動をしているそうです。

動物の命も大切な命です。迷惑な動物や不幸な動物が減り、同じ地域に住む人間も動物も皆が幸せに暮らせるように、民生・児童委員として活動していきたいと思いました。

（東栗原地区 寺山早苗 記）

こんなことがありました コロナ禍であっても

長期に渡るコロナ禍の生活が続いており、私たち民生・児童委員の活動も中止・縮小となっています。

特に、訪問活動は自粛を余儀なくされ、私がお手伝いをしている認知症カフェも中止になっています。そのため高齢者の方々にお目にかかる機会がめっきり少なくなりました。

そんな中でも、皆さまの力強さを感じる出来事がありました。早朝、カートを押しながら散歩をしている方にお会いしたのです。お声がけしますと「コロナ禍で出歩く機会が減ってしまい、足腰が弱ってしまったので」とお話しくださいました。人通りが少ない時間帯ならば、マスクを着けずに歩けるので習慣にしているそうです。自身のため、離れて暮らす家族のため、ゆっくりと歩く後ろ姿にエールをおくりました。

また、高齢者の方と立ち話をしていると、もうひとりの方がカートを押しながら歩いてきました。おふたりとも骨粗鬆症の治療を経験していて、病院や治療法など情報交換に話が弾みました。私は、話をしながら長年同じ町に住みながらも知り合いになる機会が、少ないのだと気が付きました。そこで「これからも散歩の時にお会いしたら、ぜひお声を掛け合ってくださいね」とお勧めいたしました。

今まで、民生・児童委員としてお困りの方を行政につなげる役目を重視してきました。図らずもコロナ禍になり、人と人をつなげる事も身近にできる活動なのではないかと思いました。小さな輪が少しずつ増えたら幸せです。

（常東地区 齋藤祐子 記）

民生・児童委員活動記録を記入しよう！今後の民生・児童委員活動に参考となる貴重な情報です



退任広報委員から一言

3年、6年、9年間の思い出

12月の一斉改選により1期（3年）～3期（9年）で終了の15名が退任することになりました。

この1期は殆どの広報の事業がコロナ禍で自粛、中止になって残念な委員会となりました。

退任する一人ひとりからコメントをいただきましたので紹介します。

PR週間に行う広報委員会最大のイベント、広報紙『さくら』感謝状贈呈式を経験出来ていない点が退任する方々の一致する心配事です。退任された方々には記事が足りない際にお願いの連絡があると思います、その時は気持ち良く引き受けるように是非お願いします。（広報委員会 記）

広報委員として足立区立第11中学校生徒の俳句を広報紙『さくら』58号に掲載依頼とお礼の一役に安堵致しました。
校正 斎木安江

毎月の校正会議が楽しく、スマホでの事項検索が得意になりました。
校正 坂井成一

1期（3年間）でどの程度貢献できたか自問すれば恥入るばかりです。広報委員の優しい雰囲気は私にとって最高でした。
校正 桐田幸子

民生・児童委員として知識を広める貴重な学びの時間でした。
副編集長 金宮和代

当初は、積極的に記事を書いていましたが、段々書くことが大変になりましたので、退任させていただきます。
編集（写真） 鈴木恒雄

一期でのおわかれ、少しは貢献できたかな、常に改革の意識を！
校正 土屋幸夫

掲載する原稿の整理は大変な業務でしたが、なんとかできました。お世話になりました。
書記 高橋純子

広報を引き受け文章の校正、漢字の使い方など勉強させていただき有意義な時を感謝します。ありがとうございました。
会計 小川玲子

広報委員会で他の委員との交流は貴重な体験でした。この経験を民生委員活動に活かしたいと思います。
編集 今井幸則

写真の趣味を持つ私にとって、広報紙『さくら』制作に参加させていただき大変勉強になりました。
編集（写真） 渡邊進

民生・児童委員の活動の証を編集委員の方々と6年間楽しく出来たことは私にとって宝物です。協力有難うございました。
編集長 鈴木健治

各地区の委員の方と知り合うことが出来、自分の視野が広がり、広報紙『さくら』作成の過程で自身の成長も感じました。
副委員長 齋藤祐子

コロナ禍で活動が自粛され、工夫をしながら広報紙『さくら』を発行できたことは、委員会の皆様の努力のおかげです。ありがとうございました。新組織の活躍に期待します。
委員長 益塚賢治

コロナウィルス感染拡大により思う様に活動できず3年が過ぎました。委員の皆さんと時間を共にできず悔やまれてなりません。
校正長 足立由美子

広報紙『さくら』43～60号に校正とレイアウトを担当、記事も多く書き貴重な経験ができた6年でした。
レイアウト 矢澤敏臣

次号からは、新体制の広報委員での作成となります。引き続き、お読みいただけますと幸いです。





赤い羽根共同募金活動報告



寄付金の総額 399,561 円 (R4・9・30 現在)

例年、10月の第1日曜日に区内約20か所での駅頭募金活動はコロナ禍のため今年も中止となってしまいました。

令和2年、3年に引き続き、各合同地区協議会会場での委員からの募金になりました。3年前になりますが、駅頭活動では、親に連れられた子が小さな手に握りしめたお金と笑顔を募金箱に入れてくれました。

活動のなかでこそ得られる心とむ体験がありました。活動のなかでは、様々な思いがけない貴重な経験をすることができます。

来年こそは、コロナ感染が収まり“よろしく願います”と大きな声で呼びかけができるとういすね。

(江北地区 木村克博 記)

編集後記

皆様のおかげで、広報紙「さくら」は60号の発行をお届けすることができました。

コロナ禍で多くの行事や活動が縮小・自粛されている中で、ようやく月一回の広報委員全員での会議が開かれるようになりました。

活動が自粛されている中での話題や原稿の依頼について苦心もありました。

それでも、いざ原稿があがってくると、それぞれの持ち場で時間が過ぎるのも忘れて取り組んでいる日もあります。

これからも皆様のご意見・活動をより多くの方にお伝えできるよう努力してまいります。

(11地区 桐田幸子 記)

中学生短歌コーナー

魚沼の高く飛びたるトンビの声

美しきなる野生の翼

二年 増淵 まさぶら 蒼甫 そうすけ

暑すぎて帰ることすら嫌な午後

見つけた猫はどこへ行くやら

二年 津久井 つく い 春香 はるか

夜空見てほつべに咲いた赤いハス

月を見れば心に咲く花

二年 大菅 おおすが くるみ

行く道を桃色に桜染め上げて

くすりと笑う風に吹かれて

二年 片岡 かたおか 奈々 なな

足立区立第十二中学校

- 小学生の絵画等や中学生の短歌・俳句は、区内の小学生・中学生に広報委員が順番で掲載のお願いをしています。
- また、「さくら」に寄稿していただける方は、紙面の都合がありますので、地区広報委員にご相談ください。

次回発行予定日 令和5年3月1日

広報委員会

委員長 益塚 賢治 副委員長 齋藤 祐子 書記 高橋 純子 会計 小川 玲子 編集長 鈴木 健治 副編集長 金宮 和代 レイアウト 吉田 祐一 矢澤 敏臣 校正長 足立 由美子 編集委員 杉本 和子 今井 幸則 鈴木 政博 渡邊 進 吉澤 はる江 木村 克恒 鈴木 木恒 校正委員 芦田 利久 富澤 成男 坂井 幸一 桐田 幸子 鶴岡 一郎 土屋 幸夫 神野 松枝 齋木 安江